

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成13年4月1日	
		指定年月日	平成13年4月1日	
法人名	医療法人ゆりの会			
事業所名	グループホームゆり苑			
所在地	(〒221-0802) 神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成26年2月15日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月30日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、職員が同じ時間を過ごし、私達職員はお手伝いさせて頂いているという気持ちを持ち入居者一人一人の思いを尊重しその人らしい時間を過ごせる様支援いたします。又、高齢になり身体や心に不安を抱えていると言う事を理解し職員全員が認識する事で安心した生活をして頂ければと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年3月6日	評価機関 評価決定日	平成26年4月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇「医療法人ゆりの会」の傘下であり、隣接する齊田医院が全面的に利用者に対する日常の医療、健康管理にあたっている。 齊田医院の管理の下で、従来からのかかりつけ医、また脳神経外科、眼科、歯科、菊名総合病院とも密接な関係を築いており、利用者、及び家族の信頼を得ている。 ◇建物の構造上、定員9名のところ利用者6名で運営している。利用者は全員自立度が高く、職員とのコミュニケーションも十分にとれており、小規模のメリットを活かして利用者個々の希望に沿った支援をしている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇居室は3階、リビングは4階にあり、居室とリビングの間は、エレベーターに頼らず全員階段を自力で昇り降りしている。建築上のハンデいを足腰のリハビリに活用して、利用者の健康管理に効果を発揮している。 ◇事業所は商店街の中央に位置し、食材を始め施設運営に必要な生活用品類は地元で調達しており、利用者も含め商店街の一員としての協力関係ができています。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆり苑
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が地域に関心を持ち入居者に出来事などを伝え共有し催し物には参加を促している。	・「自由・自立支援・自己決定」を理念とし、玄関に掲示している。 ・単純、明快な理念を利用者にも理解してもらい、互いに確認し合って実践につなげている。全員自己決定が可能で、できることは利用者間で分担し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な買い物、催し物、祭礼などは職員が同行し地域商店街との交流をしている。	・斉田医院との関係で、当初から地域の一員としての交流が続いており、地域の福祉関係の拠点として頼りにされている ・毎日の食材、日用品は利用者と一緒に商店街で購入し、親しい関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ロコミ等による介護相談業務が定常化しています。管理者が中心となり相談の訪れた方へ介護支援を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し苑での行事報告や感染症対策、避難訓練などの報告をしている。又、出席者の方からのご意見があった場合は参考にしサービスの向上に活かしている。	・民生委員、地域代表、ケアプラザと区役所の担当者等を構成員とし、2か月ごとの実施が定着している。 ・出席者相互から報告される情報を活かして、地域の行事に積極的に参加し、事業所の運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の受給者が多く入居しているため、区役所保護課と連絡を密にとり実情を伝え協力関係を築いている。	・区役所には、生活保護者の報告書の提出を兼ねて、事業所の実情を報告し協力関係を築いている。 ・管理者交代後の期間が短いこともあり、区の担当とは密接に連携して日常のケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険性がない限り玄関の施錠はしていません。身体拘束をする必要がない様に日々努力している。	・全員意志表示が可能であり、少人数のメリットを活かして、自立した利用者の人格を尊重した拘束のないケアを実践している。 ・玄関は施錠しておらず（訪問時確認）、個室は利用者に一任している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束について勉強会を開き指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解出来ていない所は研修などに参加し地域の支援サービスなどと協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者のご家族と契約時に読み合わせをし、不明な点は十分に説明をして理解、納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族のご意見やご要望は管理者が中心となり職員と話し合い運営に反映させている。	・利用者全員意志表示ができ、日常生活を通して意向を把握している。 ・生活保護者には、区役所の担当者との話し合いを大切にしている。 ・家族とは、来訪時に意見交換し、運営推進委員会でも意見を聞き運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問や問題点があれば職員と話し合い意見交換し良い提案は運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者、副管理者が協力し合って職員と一緒に日常のケアを行っており、遠慮のない意見交換ができる関係を築いている。 ・毎月のカンファレンスでの話し合いを大切に、職員の意見・提案は都度検討して運営に反映している。 	新管理者の基で、新たに目標計画を作成して、より良い介護の実践に役立てることが期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度理事長会を開き管理者を通して報告し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に必要な研修を受けさせている。ステップアップに繋がる研修は積極的に参加できる様に情報提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	出きる限り交流するようにしている名刺交換を通して情報交換などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や職員から聞いた事を本人と直接話し困っている事や不安に思っている事を聞き一緒に考え本人にとって最善の方法を考える様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に入居する事でご家族の不安や問題点をお聞きし入居者ご本人にとって最善の方法をご家族と一緒に考える事で関係作りを深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族がその時必要としているサービスを考え出きる限り対応できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は生活を共にする者としてお互いに向き合う様に努めている。又、職員は自分から入居者に歩み寄る事で信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対しても同様に情報を共有し合いより良い信頼関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出きる限り入居者を馴染みの場所に連れて行き入居前同様の関係を壊さないように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者には、電話を自由に使って貰うなど馴染みの関係の継続を支援している。 ・利用者によっては、以前の友人に会いに出かける方もあり、職員が同行するなど、利用者の意志、家族の希望を尊重して対応している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事などを利用し同じ話題を持ち職員、入居者に限らず気軽に話せる様な環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移っても必要に応じてご本人やご家族共連絡を取れる様にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者や職員の言葉に耳を傾け日常生活から何を思っているか毎日確認しながら生活して頂いている。	・「自由・自立支援・自己決定」の理念を、利用者も実践・体験できることを目指して支援している。 ・利用者とは、日常遠慮のない会話を交しながら、個々の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者が以前どの様な生活をしていたか近親者から情報を頂き入居者の生活に生かす様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の配置を厚くし入居者の生活状況について身体面、精神面の両面から把握する様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員、主治医、訪問看護師など色々な方から意見や助言を頂き本人との話し合いを下に介護計画を作成しています。	・医療法人の傘下にあること、利用者が少ないこともあり、本人・家族と話し合って意向を把握し、医師・看護師の助言を得て、夫々の介護計画を作成している。 ・計画は通常4か月ごとに、状況によっては随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度のミーティングや必要に応じて会議を開き職員同志意見を出し合いながら情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前より事業所の多機能化を目指しているが、今だ実現化に至っておらず時間を要するのが現状である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設、自治会、商店、保育園など地域の方々に支援を頂きながら楽しめるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を大切に以前よりお世話になっている医療機関と情報を共有しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	・入居前の医療機関間との関係を大切に、精神科、外科等は専門医をかかりつけ医とし、内科等は全員が斉田医院を日常のかかりつけ医としている。 ・情報を共有して適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常生活の中で気づいた事や感じた事を記録し訪問看護師や医師に伝え相談しその時の状況にあった診察を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、入院先医師、弊法人医師、看護師、職員が一体となり情報を共有し早期退院できる様支援し再入居に常時備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人、ご家族と話し合い希望に沿って重度化したときや終末期の対応ができるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合は、本人、家族の意向を尊重し、医療機関との連携を密にして次の受け入れ先の相談にも乗り、安心してもらえるように努めている。 ・職員の心得として終末期の勉強会を行い、今後の対応に備えている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が責任感と意識を高める為避難訓練に加えAEDの使用方法など急変時にも対応できる様に定期的に訓練を行っている。4		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	神奈川消防署や地元消防団のご尽力を頂き、地域との連携協力体制を築く事ができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署員の立ち会いのもと、階段を使った自力での避難訓練を、地元消防の協力を得て実施している。 ・スプリンクラーは各階に設置済みで、定期的に点検を行っている。 ・備蓄は3日分を確保している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者一人一人の生活状況を把握し人格を尊重しプライバシーを損ねないように注意しながら対応するよう心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者が一人になりたい気持ちを尊重しており、頃合いを見計らい居室で1対1となり、必要に応じて相談相手となっている。 ・個人記録は鍵の掛かるスタッフ室に保管し、緊急時は引き出しの保険証類と共に、まとめて取り出せるようにしている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者は生活していく中で自分自身の希望や思いを伝えられるような環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを崩さぬように注意し職員の仕事を優先するのではなく入居者の希望を優先するよう職員に意識付けする様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者自身が身に着けた物は否定せず褒める事で意欲が出るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の好みを把握し高齢者向きの食事にとらわれず安全で豊かな食事を提供している。又、支度時や片付けなど入居者にも手伝いをして頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は交代で献立から調理まで行い、食材の購入や食事の支度、片付けなどを利用者と共にしている。持病のある方には、看護師や歯科医のアドバイスを得て対応している。 ・行事食や誕生日の特別食には、利用者の好みを取り入れ、飽きの来ないように工夫している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事の摂取量や水分の摂取量を毎日記録し必要に応じて個別に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している週に一度訪問歯科n先生よりアドバイスを頂き必要に応じて職員がチェックをし介助するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄への支援や配慮はできている排泄への自立支援は重要なポイントとし支援を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表で利用者の排泄リズムに合わせ、日勤だけでなく夜勤も同様に、トイレでの排泄を支援している。 ・運動不足の解消とスムーズな排便を目的に、昼食前に高齢者体操を取り入れ効果を挙げている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い便通に繋がる様な食事を提供できる様に心がけ、水分の補給や適度な運動をする様に働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者が入浴を楽しめる様支援はしているが曜日や、時間帯を限定してしまっているのが現状である。	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回、職員が背中や洗髪などの介助をして、満足感を味わえるよう支援している。 ・利用者の体力や疲労度に配慮して、入浴の時間帯を決めている。 ・柚子湯や菖蒲湯で季節の移り変わりを感じてもらっている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、他の入居者に迷惑を掛けないよう気遣いの下に自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が服薬している薬を把握し症状に変化があった場合は主治医に相談し再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人で自分の生活を組み立てる事が出来ない方には、役割を持って頂きメリハリのある生活を送って頂く様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については出きる限りの支援を行なっている。第一に安全を考え外出を希望される方には家族や職員を介助者として同行する様支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の方も一緒に、公園や商店街への散歩のほか、食材購入の手伝いや希望の嗜好品の買い物を職員と一緒にやっている。 ・花見など行事の外出以外の希望の遠出は、家族付き添ってもらっている。 	・洗濯物を干す手伝いで屋上に行く利用者もありますが、今後、外気浴のためにも屋上の積極的な活用が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分自身で管理出来る方のみ所持して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば殆んどの場合支援できている。自室に電話機を希望される方には自立度の応じて対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境については特に工夫はしていませんが、入居者、職員が共に居心地の良い空間になるように心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングに隣接して畳が敷かれており、一人で寝るのが不安な方の寛ぎの場所となっている。 ・紙製の雛を飾り季節感を演出し、近隣の保育園児が来所した折の笑顔の写真を貼るなど、和やかな雰囲気づくりに努めている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム自体が狭いスペースを利用した建物な為一人一人になれる場所がなくお互いの部屋を行き来して工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と話し合い出きる限り本人の好みにあった居室作りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン、クローゼット、加湿器とスプリンクラが備え付けてある。 ・位牌や写真、人形、テレビなど、利用者に応じた物品を持ち込み、居心地良く過ごせる工夫をしている。 固定電話の設置も可能としている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い勝手の悪いハード面を有する施設の為入居者の安全を第一に考え声かけや見守りをし、安心して生活送れる様支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームゆり苑

作成日 平成26年4月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	7	管理者交代にあたり新たに目標達成計画を作成して、より良い介護を実践する。	新体制になるのを機に職員間で統一した介護を実践する。	入居者一人一人の状況を把握しミーティングで話し合いをする。	6か月
2	49	屋上を洗濯物の干場以外でも積極的に活用する。	お天気の意日は、屋上でランチやお茶をしたりする。	気候の良い時期は、イベントを作り屋上を活用する。	6か月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。